

外来血液透析患者の心理社会面をふまえた通院支援

長崎腎病院

○藤原久子 林田めぐみ 澤瀬健次 佐々木修 一ノ瀬浩 橋口純一郎
原田孝司 船越哲

【はじめに】

血液透析患者の通院問題は、患者の高齢化、透析歴の長期化、複数の合併症など、患者・家族にとって増々深刻化している。当院では概ね通院支援対策が確立しているが、今回はその通院支援対策には何が重要かを、症例にて考察しまとめていく事とする。

【症例】

- (症例 1) 介護タクシー事業所を変更したところ、通院拒否となってしまった。患者の説得や送迎時間の調整により順調な通院となった。
- (症例 2) 介護タクシーの職員が怖いと打ち明けられた。介護事業所へ患者の細な精神面、心理社会面の情報を提供し、患者の訴えは消失した。
- (症例 3) ADL の低下のため当院の送迎バスによる通院が困難となったため、小規模多機能型居宅介護に移行することにより介護通院が可能となった。以上のプロセスは、スタッフからの情報をまず MSW が受け、対応センター的な役割を担った。

【考察】

外来通院継続の重要点としては、患者・当院スタッフ・介護事業所の情報共有、主治医も含めた当院からの患者情報提供、院内における患者相談対応システムの周知、MSW による対応方針の決定、と思われた。

【まとめ】

外来透析通院継続のためには、スタッフと患者との信頼関係のみならず、常に専門的な観察力を持って患者を見る事が必要であり、MSW に情報を発信するというチーム医療が重要と考える。